

テーマ名：朗読劇（ラジオ・ドラマ）にチャレンジ

担当者： 代表 先進科学系 山口均
情報システム系 エリック・ランボー

受入可能人数： 10人

実施予定場所： マルチパーパスルーム（情報）

実施内容：

人文学分野における横断的・創造的学習の試みである。演劇をはじめとしたチームパフォーマンスは、いまここにある1回限りのものを大切にする芸術だが、本科目では、ここにしかない受講者と迫真の演技によって、朗読劇（ラジオ・ドラマ）やチームプレゼンテーションをプロデュースする。呼吸法、発声法、表現法などの基礎理論の学習と実践演習を併せて行う。前期は、一から作品をつくりあげるのではなく、既にある演劇、小説、映画など、受講者の興味・関心から作品を選び、朗読劇を完成し、BGMやSEを加えてCD化する。後期は、そのプロセスを全て学生自らで行うセルフプロデュース作品を完成し、CD化する。同時にコンピュータによる音声編集ソフトの技術を習得する。

本科目では、動作を用いての演劇ではなく、声や音だけで表現の幅を広げる、朗読劇及びプレゼンテーション系のパフォーマンスにチャレンジしてゆく。取り上げる作品は、日本語、英語、どちらの言語でも構わない。山口は、ラジオドラマの視点から助言をし、ランボーは、音声学的な視点から助言をする。また希望があれば、全国高専英語プレゼンテーションコンテストへの参加も視野に入れる。科目を通して、受講者には、特に創造力、自己表現力、協調性が求められる。

演習計画：

- (1) 朗読やプレゼンテーションの基本となる、呼吸法、発声法、演技法等の基礎理論学習とその実践としての練習を毎時間行う。
- (2) いくつかの候補作品の内容を把握し、取り上げる作品やテーマを選定する。
指導教員がいくつかの作品を推薦するが、受講者からも取り上げたい作品を募る。
並行して、作品を鑑賞する際に、作品の根底に流れているテーマを論じ、意見交換するなかで作品の多角的な理解を深める。
- (3) 朗読劇（ラジオ・ドラマ）やチームプレゼンテーションの長さや配役、構成を決める。また、必要な道具を検討する。あわせて、プロジェクトのスケジュールを作成する。
- (4) 分担を決め、朗読劇の各シーンを再構成する。
- (5) メンバーによる台詞の読み合わせ練習
- (6) BGMやSEの選定
- (7) 朗読劇の録音（CDの制作）と発表（可能であれば、ゼミ外部で公開する）
- (8) 本プロジェクトのふりかえり

到達目標：

- (1) 朗読やプレゼンテーションに必要な基礎を身につけている。
- (2) 朗読劇（ラジオ・ドラマ）を作り上げる過程で、他のメンバーと協力してひとつの作品を仕上げるができる。
- (3) オーディエンスを意識した朗読劇・チームプレゼンテーションを作り上げることができる。
- (4) 作品鑑賞に必要な基礎知識を備えた上で、作品を論じることができる。